

# 花蕾締まった状態で収穫

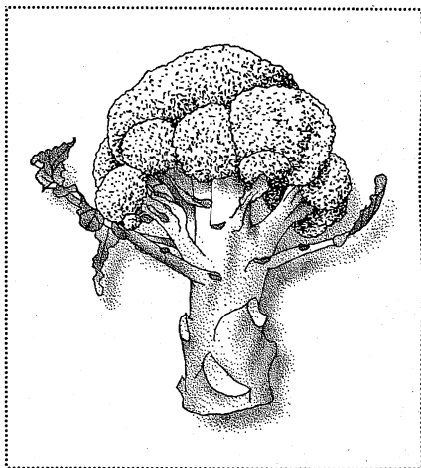
——**鮫島 國親**



花蕾（からい：つぼみ）と柔らかい花茎部分を食べる野菜です。一般に広く消費されるようになったのは昭和50年代以降です。ビタミンC，カロテン，カルシウムなどを豊富に含んでおり，サラダやシチュー，いため物などさまざまな料理に幅広く使われています。

花蕾は花芽が分化，発達したものです。この花芽分化には一定の低温が必要で，その程度は品種で大きく異なることから，品種を組み合わせると長期間収穫が楽しめます。今回は夏まき及び秋まき栽培を紹介します。

生育適温は15－25度，発芽適温は15－30度です。耐寒性が強く，霜害を受けることは少ないです。肥よくな土壌で，保水力があり，排水のよいほ場が適します。**連作やアブラナ科野菜の跡地は避けましょう。**作型は**夏まき（7月中旬－8月下旬）と秋まき（9月上旬－10月中旬）**が一般的です。育苗方法は地床育苗とセル成型育苗があります。



最近多いセル成型育苗について紹介します。市販の培土を128穴トレイに詰め，一穴に一粒ずつ種子をまき，覆土してかん水後，新聞紙で覆います。発芽後，新聞紙を除き，適宜かん水します。育苗期間中は防虫ネットをトンネル状に張り，さらに高温時は日中遮光を行うとよいです。

本葉2－3枚で根鉢がくずれなくなったら定植します。育苗日数は25－30日です。本ぼには1平方メートル当たり苦土石灰100g，堆肥2kg，化学肥料120g（三要素15%の場合）を目安として施します。栽植密度はうね幅60－80cm，株間30－40cm，一条植えとします。一般に早生種では狭く，晩生種では広くします。追肥は1カ月後から生育に応じて20g/回を2－3回行い，同時に中耕，土寄せをして倒状を防止します。

して倒状を防止します。

収穫は花蕾が十分発達し，締まった状態で行います。収穫が遅れると花蕾がゆるみ，花蕾粒が大きくなります。**収穫期は夏まきで11－1月，秋まきで1－3月ごろ**です。品種によっては頂部の花蕾を収穫した後，脇芽からの収穫も楽しめます。

（**鹿児島県農業開発総合センター副所長**）

**平成20年8月14日（木）／南日本新聞**